

2017年6月議会 しもおく議員が反対討論

愛知県議会6月議会は最終日の7月6日、提出されている議案の採択を行いました。
共産党のしもおく議員は、いくつかの議案に対して反対の討論を行いました。

大規模展示場の天井高変更 税金のムダ遣い

まず、国際展示場整備事業費(展示場の一部天井高を14mから20メートルに変更で合計約6億円)の補正予算について、しもおく議員は「イベント主催者からの意見を踏まえての(今回の)突然の変更は計画そのものが極めてずさん」と追及。振興環境委員会では「展示ホールとしては14mが適切だがコンサートもできるように20mにした」と答弁されたことを紹介し、「儲けるために際限なく費用をかけるやり方は危険な展示場ビジネス」と指摘。「県民の負担が増えるばかりのムダな大型開発は賛成できない」と述べました。

中小企業の振興・支援策実施を

プロフェッショナル人材戦略拠点運営委託事業費(従来は派遣会社から中小企業へ人材を紹介していたものを大企業からの出向・研修等も行えるようにするもので2千万円)の補正予算について、しもおく議員は「大企業からの派遣で、単価をたたかれる、納期を早められるなどの問題がある大企業と中小企業の関係が対等にならないことが懸念され、中小企業支援とは言い難い」と指摘。「『大企業がよくなれば中小企業も良くなる』という大企業中心の経済政策を改めて、中小企業を日本経済の根幹に位置付け、それにふさわしい振興・支援策をすすめるべき」と追及しました。



教育の機会均等を保障する制度に

訴えの提起は、愛知県から貸与された高等学校等奨学金貸付金の返還を延滞している方に対して、貸付金の返還を求めるものです。

格差の拡大や非正規雇用の増大などで、若者たちの敬愛状況はますます深刻になっています。

しもおく議員は「滞納者に対して訴えの提起を行うことは、返済に苦しんでいる人にますます大きな不安を与えてしまう」と指摘しました。また、「だれもが安心して高校に通えるために、奨学金給付制度や返済支援制度の創設、高校の授業料の無償化が求められる」と教育制度の充実の必要性を述べました。

それ以外に、国際展示場条例の一部改正には反対し、ジブリパーク(仮称)の補正予算含め、他17件の議案には賛成としました。

